



巡察師アレッサンドロ・ヴァリニャーノ

ポイント①



有馬のセミナリヨ「ローマ教皇グレゴリオ13世伝」より
[大分市歴史資料館蔵]



有馬のセミナリヨ跡石柱

巡察師ヴァリニャーノの発案によって、1580年に日本初の本格的な西洋式学校として有馬のセミナリヨが建設。10代前半の少年たちが西洋音楽やラテン語などをこころ学びました。正確な建設場所とは不明ですが、北有馬町の谷川地区にあったとされ、推定地には石柱が建っています。



「発見のモニュメント」(世界遺産)とリスボンのテージョ川と吊橋

〔天〕戦国大名が群雄割拠し、織田信長が「天下人」を名乗ったところ、現在の南島原市、旧有馬藩からローマを目指す一団があった。後に「天正遣欧少年使節」と呼ばれる。旅を企てたのはイエズス会の巡察師アレックス・サンドロ・ヴァリニャーノだった。日本は混沌の闇の中にあつたが、アジアで飛び抜けた知性と道徳観を持つ日本人の存在を、ヨーロッパの貴族やキリスト教世界にアピールし、さらに経済支援の獲得を目的とした。渡欧の途中に寄港したアジアの都市を除いても、ポルトガル、スペイン、

イタリアで80都市以上を訪れている。〔平〕現代の子どもたちに天正遣欧少年使節が訪れた都市を体験させるべく、口之津開港450年の記念事業として「平成遣欧少年使節」が計画された。〔天〕1580年にヴァリニャーノによつて有馬のセミナリヨが創設された。関ヶ原の戦いより20年前に、南島原市で日本初の洋式教育が行われたことになる。

〔平〕全国から選抜した中学生で再現授業を行い、その中から選ばれた8人で新使節団が結成された。南島原市4人、市外から4人である。ポルトガル側の推薦もあり、エヴォラ市を最初の訪問地に選んだ。日本を発つて2日目の夜リスボンに着いた。翌朝、期待と不安を胸に、リスボンからスペイン国境に近いエヴォラへ向かった。テージョ川を渡ると対岸にはコルク樫とオリーブの林が延々と続いている。エヴォラは丘の上にあつた。城壁に囲まれた市街は天正時代の姿をそのまま残し、世界遺産に登録されている。



セミナリヨ授業を受ける22人の中学生（南島原市）

430年前の足跡をたどる

※文中見聞記「天正遣欧少年使節」を〔天〕、「平成遣欧少年使節」を〔平〕と表記します。



1582年2月長崎港を出発した南蛮船に乗り込み、日本で初めてのヨーロッパ派遣団、天正遣欧少年使節はローマを目指しました。
4人の少年たちは、有馬のセミナリヨ第1期生、名前は伊東マンショ、千々石ミゲル、原マルチノ、中浦ジュリアン。4人はキリシタン大名有馬晴信、大村純忠、大友宗麟の名代として、ヨーロッパに日本人の存在を知らしめました。
今回、口之津開港450年記念事業として、ポルトガル・イタリアへの訪問団、「平成遣欧少年使節」を派遣しました。派遣団は市内をはじめ、全国公募の中学生8人と一般団員で構成し、派遣期間は8月1日から11日まででした。
今月の特集は、「平成遣欧少年使節見聞記」海を渡った少年たち」と題し、派遣団の一員として参加した本市の高田征一副市長の報告を中心に紹介します。



平成遣欧少年使節見聞記 海を渡った少年たち



特集：平成遣欧少年使節見聞記
～海を渡った少年たち～
(2～9)



まちの話題(10～11)



南島原市民スポーツ大会(12～14)

CONTENTS

特集：平成遣欧少年使節見聞記 ～海を渡った少年たち～	2～9
まちの話題	10～11
南島原市民スポーツ大会	12～14
南島原にゆーす	15～19
もっと南島原ツアー2012	20
復興の絆	21
和牛の祭典inながさき	22
島原半島世界ジオパーク	23
くらしの情報	24～26
第31回 みそ五郎まつり・ ありえ蔵めぐり音楽祭	27
南島原図書館だより	28～29
保健事業のご案内	30～31
市民カレンダー	32